

7章 函 渠 工

7.1 函渠工

7.1.1 函渠工（1）

7.1.2 函渠工（2）

7章 函渠工

7.1 函渠工

7.1.1 函渠工(1)

1. 適用

以下のいずれかに該当する函渠工（現場打カルバート工）の施工に適用する。
 (1) 土被り範囲9m以下で1層の現場打ちボックスカルバート（アーチ等形状は問わない）
 (2) 土被り範囲9m以下で1層2連の現場打ちボックスカルバート
 (3) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が340m以下の場合
 また、適用を外れる現場打カルバート工については、函渠工（2）を適用する。

2. 数量算出項目

函渠本体コンクリート（ウイング、段落ち防止用枕を含む）、化粧型枠の数量を区分毎に算出する。
 また、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、均しコンクリート、目地・止水板（I型）については必要の有無を確認する。

- 注）1. 基礎砕石（敷均し厚20cmを超える場合）については、「第1編（共通編）9.1基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」によるものとする。
 2. 目地・止水板（I型以外の形状）については、別途考慮するものとする。
 3. 冬期の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編（共通編）11.6.2雪寒仮囲い工」によるものとする。

3. 区分

区分は、コンクリート規格、内空寸法、養生工の種類、基礎砕石の有無、均しコンクリートの有無、目地・止水板の有無、圧送管延長距離とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報									
			コンクリート規格	内空寸法	養生工の種類	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	目地・止水板の有無	圧送管延長距離	単位	数量	備考
函 渠	A		○	○	○	○	○	○	○	m ³		

「函渠」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いてコンクリート規格等を区分することより「A」を適用する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。

7. 1. 2 函渠工(2)

1. 適用

函渠工（1）の適用範囲を外れた函渠工コンクリート打設に適用する。

参考（函渠工（1）の適用範囲を外れた函渠工）

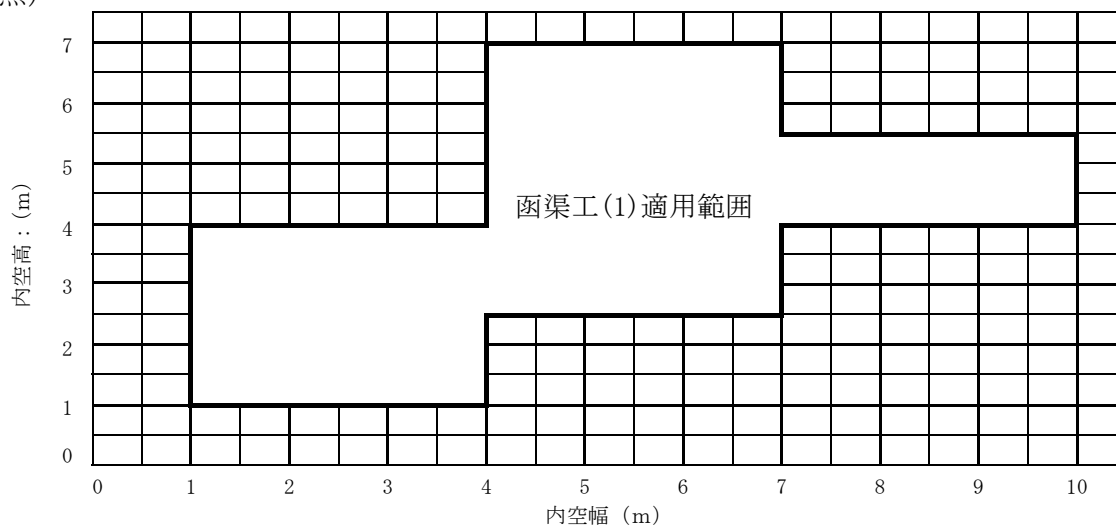
河川工事で施工する函渠

- ・樋門・樋管(函渠(門柱等含む)、翼壁、水叩)、ボックス形式の水路等

道路工事で施工する函渠

- ・ボックスカルバート以外の函渠
- ・1層又は1層2連以外の函渠
- ・土被りが9mを超える函渠

・「第1編（共通編）7. 1. 1 函渠工（1）」の適用範囲を外れる函渠（下図参照）



2. 数量算出項目

コンクリート（場所打函渠）の体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

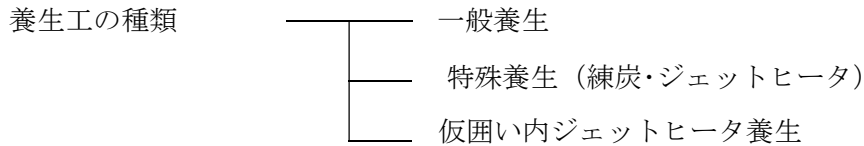
区分は、規格、生コンクリート規格、養生工の種類、圧送管延長距離区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

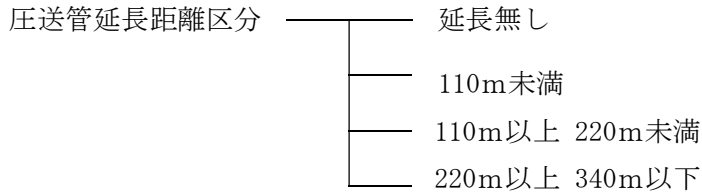
項目	区分	3次元 モデル	属性情報					
			規 格	生コンク リート 規格	養生工の 種類	圧送管延長 距離区分	単 位	数 量
コンクリート （場所打函 渠）	A	○	○	○	○	m ³		

「コンクリート（場所打函渠）」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格等を区分することより「A」を適用する。

(2) コンクリート（場所打函渠）の養生工の種類による区分は、以下のとおりとする。



(3) コンクリート（場所打函渠）の圧送管延長距離区分は、以下のとおりとする。



注) 圧送管延長距離区分は、作業範囲（30m）を超えて圧送管を延長する場合に、超えた部分の延長距離を該当する区分から選択する。

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
型枠	m ²		「第1編（共通編）4. 2型枠工」参照
鉄筋工	t		「第1編（共通編）4. 3. 1鉄筋工」参照
足場工	掛m ²		「第1編（共通編）1 1. 4足場工」参照
支保工	空m ³		「第1編（共通編）1 1. 5支保工」参照
基礎材	m ²		必要な場合別途計上
均しコンクリート	m ³		
水抜パイプ	m		必要な場合別途計上
吸出し防止材	m ²		必要な場合別途計上
目地板	m ²		必要な場合別途計上
止水板	m		必要な場合別途計上

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) コンクリート（場所打函渠）の数量は、ウイング、段落ち防止用枕を含む本体コンクリートの数量とする。